

金属をつくる**金属工業**と、自動車や船などをつくる**機械工業**は(1…?工業)とよばれ、原油などから化学肥料やプラスチックなどをつくる**化学工業**と合わせて(2…?工業)といい、これが日本の工業生産額のほとんどをしめています。

石炭を蒸し焼きにした(3…炭素の固まりのこと)や石灰石を鉄鉱石に加えてつくる鉄鋼業は製鉄業ともいい、金属工業の中心です。鉄鋼生産量の世界の1位は(4…外国名)です。原料の輸入に便利な(5…?部。海沿いの地域のこと)に製鉄所がつけられます。

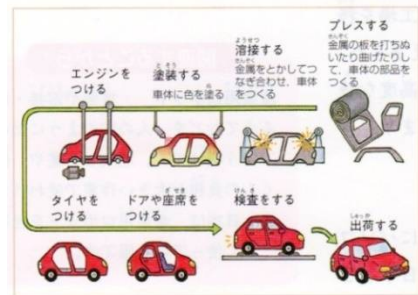
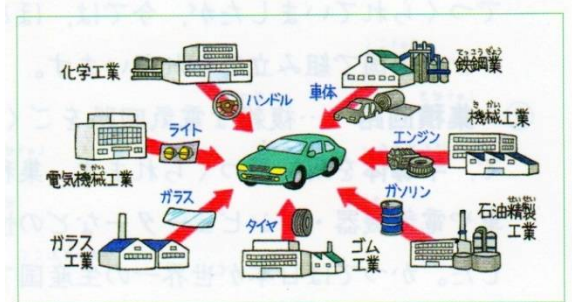
アルミニウムは、ボーキサイトを原料にして(6…カタカナ)をつくり、それを電気分解して取り出します。電気代の高い日本はそのほとんどを輸入しています。

機械工業のうち、もっとも生産額が多いのが自動車です。

自動車生産台数の世界1位は(7…外国名)ですが、メーカー別の順位では日本の(8…カタカナ)で自動車が世界の上位です。

自動車は2～3万個の部品からできており、多くの部品をつくる工場にささえられています。こうした工場を(9…?工場)といい、

多くの人たちが自動車に関連する仕事で働いているため、この工業は日本の(10…?の?)といわれています。



自動車は左のように(11…?作業)でつくられており、必要な部品を必要な量だけ必要な時に運び込む(12…カタカナで?方式。)という生産方式をとり、かかる費用を下げる努力をしています。また、人件費や土地代をさらに安くできる海外でつくる(13…?生産。現地生産のこと)がふえていましたが、ミャンマーのように、政情不安(内戦が続いている)から撤退する企業も出ています。これからの世界の主流になるとと思われる電気だけで走るEVと言われる

(14…?車)、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせたHVとよばれる(15…?カー)、家庭のコンセントからも充電することができるPHVとよばれる(16…?車。)、水素を燃料にして排気ガスを出さずに走るFCVとよばれる車を(17…?車)といいます。

造船量の世界の1位は(18…外国名)で、2位が(19…外国名)、日本は3位です。

コンピュータ・複写機などの頭脳のはたらきをするICやLSIなどの(20…?回路)は電気を通したり通さなかったりする(21)を使ってつくり、炊飯器や自動車など、私たちの身の回りのほとんどの製品に使われています。

危険のともなう作業を、人に代わって行う機械を(22…?ロボット)といい、日本はこうした機械にすぐれた技術をもっています。

石油化学製品の原料となる(23…カタカナ)はタンカーで運ばれてくるため、港のそばに工場が建設されています。また、石油精製工場と石油化学工場は、同じ原料を使うため、その工場同士はパイプで結ばれており、このしくみのことを(24…漢字とカタカナ)といいます。

生活の変化にともない、冷凍食品や常温でも保存できて温めるだけですぐに食べられる(25…?食品)の生産量が増えており、その重要性が高まっています。また、米や麦を発酵させてつくるビールや、しょう油・酒・みそなどをつくる(26…?業)も食料品工業です。

ニューセラミックスといわれる(27…カタカナ)などの焼き物は、固くて熱に強くさびないため、ナイフ・電子部品・自動車部品・人工骨などに広く用いられています。また、セメント工業は原料の(28…?石)がとれる山口県や埼玉県などで発達しています。



木材を細かくくだいた(29…図の左)を薬品で溶かして取り出したせんいがパルプです。これが紙の原料になります。ほとんどは輸入しています。



せんいは、綿花からつくる綿織物、生糸(まゆ)からつくる絹織物、羊毛からつくる毛織物などのことをまとめていう(30…?せんい)と、石油からつくる(31…?せんい)に分けられます。生産量のほとんどは石油からつくるせんいがしめており、ユニクロに代表されるように、中国や東南アジアなどで生産した製品を輸入する衣料の(32…?輸入)が増えて、国内の生産額は減っています。